

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900866		
法人名	有限会社 エイエスサービス		
事業所名	グループホーム サンホーム		
所在地	田川市大字川宮1711-29		
自己評価作成日	平成23年11月11日	評価結果確定日	平成23年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号
訪問調査日	平成23年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者には出来るだけルールを作らないことをルールとし各個人が暮らしやすい環境であるように心がけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成22年に現在の地に移転したため、入居者が今までと違う環境に戸惑い、混乱するのではと心配していたが、「人生は人として生きること、その人らしく生きること…そのことを少しでもお手伝いする」との理念に基づき、馴染みの職員によるゆったりと一人ひとりのペースに合わせた支援で、入居者は穏やかな生活を継続している。その姿や暮らしを編集したDVDを家族に贈り喜ばれている。毎月の職員ミーティングで提案された、給与や処遇改善交付金の配分等が運営に反映され、離職もなく年齢に幅のある職員がそれぞれの持ち味を活かしながら働いている。実習生の受け入れや職員が講師を引き受けることは継続され、今後は運営推進会議を活用しながら、転居地での新たな地域交流が期待できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 1号館／グループホーム サンホーム

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は出来ているが今後は地域の地域の住民との関係を深めより地域密着サービスの意義についていきたい	各ユニットの玄関に「人生とは人として生きること、人といっしょに生きること」と、大きく理念を掲げ、「ゆっくり、のんびり」、ルールが無いことがルールであると、一人ひとりのペースに合わせて日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動に参加はしているが年に1回程度で今後は日常的に交流していけるようにホームから働きかけていく必要がある	平成22年に移転し、その地域の自治会に加入しているが、隣組が三軒のみで特に地域活動がなく、年1回クリーン作戦で清掃活動に参加している。景観に配慮し、ホームまでの道沿いの雑草を自主的に刈ったり、清掃したりしている。実習生の受け入れや研修の講師を引き受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回は地域での認知症への理解を深めていけるように介護教室の依頼を受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見等を活用して改善方法についても、検討しサービスの向上に活かしている	守秘義務・個人情報の取り扱いを明記した運営推進会議規約を整備し、委員には委嘱状を発行している。2ヶ月毎の会議には、家族、市職員、地域住民の参加があり、行事報告や検討事項を話し合ったり、毎回テーマを決めて学習している。会議録を整備し、玄関に開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村窓口と毎月連携をとり入居状況等の連絡を取り合い連携を図っている	毎月介護保険課に空き居室の情報等を報告し、意見交換している。行政担当者から、実習生の受け入りの相談があったり、ケースワーカーから入居相談が寄せられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回は身体拘束についての理解を深めるために話し合いをしている	ホーム内で身体拘束について研修し、拘束のないケアを実践している。玄関にセンサーを設置しているが、現在まで使用したことは無く、無断外出傾向の入居者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は高齢者虐待についての理解を深めるために話し合いをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は成年後見制度について話をすると共に入居契約時にも家族に説明している	成年後見制度の説明用資料を作成し、職員研修を実施している。制度等のパンフレットを整備し、入居時資料の配布や説明をしているが、これまで制度の利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時及び入居相談時より時間をかけ十分に不安や疑問点について話し合い、入居契約している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置しているが利用者や家族が意見や要望がある時はすぐに相談をうけ、対応しているが特に記録等に残してはいない	各ユニットとも玄関にご意見箱を設置しているが、ここ2年間投函されていない。運営推進会議に家族代表の参加があり、家族の訪問時には何でも言える雰囲気作りに配慮している。「外出の際は家族にも声を掛けてほしい」と意見をいただき、外出時は家族の協力を戴いている。年1度クリスマス会後に、1時間ほど家族会を実施している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者も職員ミーティングに参加し、意見や提案しやすい環境を作っている	毎月の職員ミーティングで、意見や提案を話し合っている。給与を日給制から月給制に変更することや、処遇改善交付金の配分は、職員の資格・経験等でランクをつけず、年間二回平等に配布することや自動掃除機の購入の提案があり、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金改善や職場環境の改善を行ってきたため、退職者等もほとんどいない		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ここ数年求人していないが採用条件として、特に性別や年齢は採用条件に含んでいない	離職者が無く4年間新規採用者はいない。60歳定年であるが、希望すれば働くことが可能で、現在20歳代から69歳までの職員がそれぞれの持ち味を活かし働いている。昼休みは休憩室で交代でとり、一泊の慰安旅行等でストレス解消などしている。近隣町の在介支援センターが主催する研修を受講している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回は人権教育についての理解を深めるために、話し合いをしている	人権について研修し、自治体の作成したパンフレットや資料を全職員に配布している。高齢者虐待防止マニュアルを整備し、重要事項説明書に身体拘束・虐待防止を明記している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や必要に応じて法人外研修の参加を促し、職員のトレーニングに努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員の同業者との交流の場が特にないため、今後は必要に応じて交流の場を設けるように取り組んでいく		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時から安心して暮らせるように、職員と家族と協力しサービス提供に努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前から何度も面談し家族の不安等を出来るだけなくすようにし、関係を築いている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に入居者の状態に応じて、家族の協力をかりて入居者が安心してホームでの生活が送れるように、支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士でいれるように、一緒に日常生活を送れるように職員も、利用者と一緒に過ごしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも認知症についての理解を深めるようにし事業所だけでなく、家族にも協力してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人との関係が無くならないように、面会があり支援している	入居者が以前住んでいた近隣の方の訪問があり、ホームでは昼食を勧めたりして歓迎し、現在も交流が続いている。馴染みの美容室に通ったり、自宅に帰りたいとの希望には職員が同行し、近隣に住む同窓生宅に立ち寄りしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるように支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームを退居しても必要に応じて相談等に応じ、退居後の利用者・家族に対してもフォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を出来るだけ取り入れ、サービス提供に努めている	職員は担当制で入居者と馴染みの関係を築き、日々の関りの中で暮らし方や一人ひとりの思いや意向を充分把握し、本人に寄り添い支援しているが、把握した希望・意向の記載が少ない。	把握した生活歴や職歴、趣味、職員の気づきを整備し、全職員が思いや意向を把握できるようお願いしたい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴等把握し生活環境を作れるように、支援サービス利用の経過を把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の心身の状態にあわせて必要なサービスの提供に取り組んでいる		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している	本人や家族にと話し合い、介護計画を作成して説明し、了解を載している。入居者一人ひとりに合わせた支援をしているが、短期目標が画一的で、個別性のある具体的な目標の記載がない。	モニタリングを容易にするためにも、個々の残存機能を活かした具体的な短期目標の記載をお願いしたい。また、検討会議内容を活用した目標設定も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や介護者同士の情報を参考材料とし、実践や介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に必要なサービスや家族の意向に応じて、その都度サービス内容の変更を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりの心身の力を発揮し楽しんで生活できるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を受診している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しているが、協力医療機関の訪問診療や訪問歯科を受ける入居者もある。眼科等の専門医の受診も支援している。受診の際は職員が同行し、情報提供を行っている。受診記録は個別にファイルし、家族に訪問時や電話で報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の訪問看護の来訪時には、必ずそれまでにあった利用者の状態について説明し、適切な受診を受けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は家族・医療機関と話し合い出来るだけ早く退院できるように取り組んでいる		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた話と家族と行い、当ホームで出来ることを説明し必要に応じて、協力の医療機関と連携し支援している	入居者の緊急時の治療承諾書や重度化した場合の対応や看取り介護に関する指針を整備し、入居時説明し同意をいただいている。現在終末期の入居者はいない。	看取りまで支援したいというホームの考え方を職員と共有し、ターミナルケアの研修を実施しされてはいいかでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアル等は用意しているが 緊急時等の訓練は特に行っていないため、 今後は必要な訓練も行い実践力を身につけていく		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルや避難訓練を行い、利用者避難できるように訓練しているが、地域との協力体制がまだできていない	入居者と共に年2回、避難訓練を行い、内1回は夜間想定で実施している。AEDの講習を受講し、消火器、給水タンク、自家発電装置を設置している。1年分の米や缶詰・調味料・日用品が備蓄しているが、内容を検討する予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の性格、認知症の状態等を把握し、 尊厳を大切にしている	職員は入居者の尊厳に配慮し、対応は穏やかで、目立たず、トイレ等プライバシーを配慮した声かけや、さりげない誘導で支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者・職員間に壁は無く家庭的で明朗な 雰囲気の中、自己決定できるようにしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを尊重し押し付けや指導は 無く自由にできる事を、やりたいことを優先し日々支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ在宅で使用していた服を使用し、 支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の心身の機能に合わせて、食材の加工を職員と行い、できる事は協力してもらい支援している	食事を担当する職員が「今日は何にしようか？」と声かけして入居者と相談しながらメニューを決めている。誕生日は職員の手作りケーキでお祝いしたり、たこ焼きやお好み焼きを楽しんでいる。外食では各自が好きなメニューを選び、毎晩晩酌を楽しむ入居者もいる。伴食は職員1名がしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の心身の機能に合わせた食事量・内容で提供し食事・水分の摂取量を記録し支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に各個人の口腔内の状況に合わせた口腔内ケアを実施している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を促し、心身の状態に合わせた介護用品を使用し対応している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーを配慮した声かけや些細なサインも見逃さないように誘導をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツやパットを適時使用している。リハビリパンツを活用し、排泄の自立を継続している入居者や、入居してから布パンツで対応できるようになった入居者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便できるように支援しているが必要に応じて下剤等も使用している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	全利用者は2日に1度は入浴時に時間帯が決まっていないため、入浴したい人から入浴している	入浴したい時に支援しているが、午後から入浴希望者が多く、マンツーマンの同性介助で毎日入浴したり、専属の職員が介助したりしている。入浴拒否には時間を置いて、声かけの工夫で対応できている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤は極力ひかえて昼夜逆転しないように、昼間に適度な疲労を支援し眠りを支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者に担当を設け薬の管理、服薬方法、他の職員に申し送り処方内容をファイルし、症状の変化があれば主治医に連絡し服薬内容の変更等を行い対応している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操・ゲーム・歌・折り紙・テレビ等の余暇の時間をたのしめるように日々模索中		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や職員の声掛けで外出を行っている	行事計画のドライブや季節のお花見をしたり、日常的な散歩や買い物その他、美容院等、本人が希望する場所への外出を支援している。病院受診の帰りに昼食を食べてきたり、ドライブスルーを経験したり、コーヒー飲み出かけたり気分転換を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお金を管理し買い物希望時は介護者が付き添いスーパー等で使用している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話がしたいときは電話等を使用し対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペアガラス・温度・湿度計・加湿器・空気清浄機などの機器を使用し居心地のよい空間づくりを行っている	玄関前の穏やかなスロープは屋根付きで雨に濡れずに車の乗り降りができる。バリアフリーで明るく広々したりリビングは、テーブルと座り心地の良い椅子やソファが置かれ、入居者はお気に入りの場所やソファで寛いでいる。床には滑り止めの消臭マットが敷き詰められ、広い廊下には加湿器や空気清浄機が置かれている。清潔でゆったりとした雰囲気がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士がゆっくり過ごせるようにソファを置き話せる空間を作っている。また、好きな歌をCDで聴きながら歌っている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を聞きながら安全を考え過ごしやすいように配慮している。またその状況に合わせた対応をその都度している	居室入口には引き戸にネームプレートが掛けられている。入居者のADLや生活習慣に合わせて、電動ベットやマットレス・布団を使用している。愛用の椅子やソファ、テレビ、日用品が持ち込み、家族の写真やひ孫の描いた絵を飾ったり、好きな花を置いたり居心地よく過ごせるように配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事は職員と一緒にい行いわかることは、職員は見守り対応している		